

大学入試センター試験が21日、終わった。受験生たちは答え合わせをしながら一喜一憂していることだろう。方、試験初日の20日、佐世保市のレストランでは、佐世保高専が市民を対象に企画した一般教養講座「哲学カフェ」が開かれ、答えが一つではない問い

ことではなく、複数の人の見方を知り、考える場を提供することが目的」という。参加者は10、70代の女性16人と男性5人。開催を知って関心を持ちたり、知人に誘われたりして集まった。テーマは「内と外とはど

ういうことか?」。70歳の男性が口火を切った。「『いじめ問題』を社会が何とかしないといけない。自分に都合が悪い。自分には都合が悪い。悪くなると日本人は世間で開かれる予定だ。『哲問』に逃げ込みがちになる」と指摘した。

「自分の子どもは『内』ですか、『外』ですか?」と19歳の女性が問いかけると、34歳の女性は「『外』と考えている。自分の価値観を押しつけない育て方をすることが愛情

ではない問い。70歳の男性が口火を切った。「『いじめ問題』を社会が何とかしないといけない」という発言が多いが、社会を自分の『外』にあるものか、女性に『いつかは雑事に走り回って考えないようなことを考える時』を問うたという認識がない。58歳の女性は「欧米と違い日本では『社会』は世間」に近い。カフェの開催は1昨年10月に続いて2回

西海評論

問いを深める



をめぐって参加者が活発な議論を交わした。進行役を務めた一般科目哲学科助教授の川瀬雅也さん(38)によると、哲学カフェはフランスで始まった。お茶を飲みながら、肩ひじを張らず、専門用語を使わずに哲学的なテーマを語り合う試みだ。「明瞭な答えを出す

切った。「『いじめ問題』を社会が何とかしないといけない」という発言が多いが、社会を自分の『外』にあるものか、女性に『いつかは雑事に走り回って考えないようなことを考える時』を問うたという認識がない。58歳の女性は「欧米と違い日本では『社会』は世間」に近い。カフェの開催は1昨年10月に続いて2回

「『いじめ問題』を社会が何とかしないといけない」という発言が多いが、社会を自分の『外』にあるものか、女性に『いつかは雑事に走り回って考えないようなことを考える時』を問うたという認識がない。58歳の女性は「欧米と違い日本では『社会』は世間」に近い。カフェの開催は1昨年10月に続いて2回

「『いじめ問題』を社会が何とかしないといけない」という発言が多いが、社会を自分の『外』にあるものか、女性に『いつかは雑事に走り回って考えないようなことを考える時』を問うたという認識がない。58歳の女性は「欧米と違い日本では『社会』は世間」に近い。カフェの開催は1昨年10月に続いて2回

「『いじめ問題』を社会が何とかしないといけない」という発言が多いが、社会を自分の『外』にあるものか、女性に『いつかは雑事に走り回って考えないようなことを考える時』を問うたという認識がない。58歳の女性は「欧米と違い日本では『社会』は世間」に近い。カフェの開催は1昨年10月に続いて2回

「『いじめ問題』を社会が何とかしないといけない」という発言が多いが、社会を自分の『外』にあるものか、女性に『いつかは雑事に走り回って考えないようなことを考える時』を問うたという認識がない。58歳の女性は「欧米と違い日本では『社会』は世間」に近い。カフェの開催は1昨年10月に続いて2回

「『いじめ問題』を社会が何とかしないといけない」という発言が多いが、社会を自分の『外』にあるものか、女性に『いつかは雑事に走り回って考えないようなことを考える時』を問うたという認識がない。58歳の女性は「欧米と違い日本では『社会』は世間」に近い。カフェの開催は1昨年10月に続いて2回

佐世保支局長 小野英行